

メーカーは3月契約以降、店売り販価を据え置いているが、来月には値上げに動く

高水準の出庫量となったH形鋼

たい」としている。

は減少した。

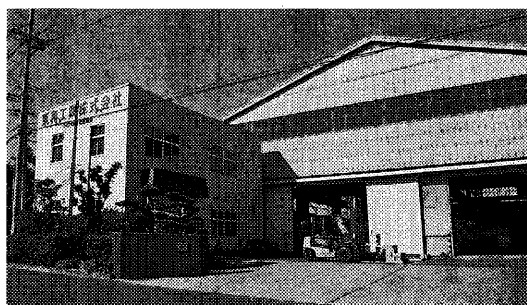
H形鋼は、仕入れが前月比15・2%減の2

・8%増加した。中山形は、販売が同

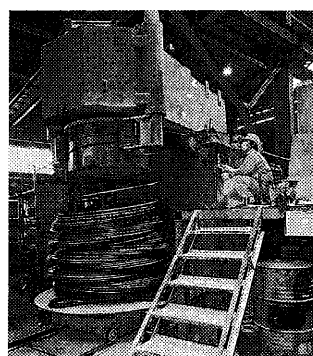
東和工業

建築用ファスナーメーカーの東和工業（本社・大阪府堺市、社長・中谷成智氏）は、本社工場と第2工場の二拠点体制で鉄鋼製ナットに特化したものづくりを行っている。1944年に大阪市港区で設立した同社は、78年に本社・工場を現在地に移転、85年に第2工場を取得した。その後も2011年に高石市に物流倉庫を、今年3月には本社工場の南隣に別館を取得するなど、業務拡大を続けている。冷間ホーマーナットを中心に製造・販売する、国産ナットのシェアでは国内トップクラスの同社工場を訪れた。（綾部 翔悟）

事務所・工場外観



工場には伸線機を配備



また、2台の伸線機を駆使して、丸だけでなく六角や四角などの伸線を行っている。更に、4軸式ねじ切り機を約30台、4段、5段、6段のフォーマーを計13台配備し、多様なサイズにも対応している。そして、めねじを加工するタップのメンテナンス技術を有する。社内研磨によってコストダウンを図っている。そのほか、2階の食堂には休憩可

今年3月に取得した

て成長していく（同）と熱心な量の小上がりを設け、社員教育用ビデオを置くなど福利厚生や教育訓練関連の充実

が向上するよう場所として活用していきたい（同）という。呼称は別館としており、本社・工場とは母家と離れ

工場ホ

高品質の国内ナット生産が強味

多種多様製品を効率生産

国内材で品質追求

東和工業の本社工場では、調達した線材の酸洗・伸線から製品加工までの一貫生産体制を敷いている。ナットの母材となる線材は中山製鋼所やJFEスチールなど国内メー

カーからの供給が中心となる。中谷社長は「ナット市場は約7割が輸入品となつてい

月産は約580トで、アイも図っている。同じく2階建の第2工場では自動梱包ラインを配置し、

く、その要求に迅速に対応するため、一貫体制の下、メイ

同社は今後も、安価な輸入品に對抗し、需要開拓や人材の確保・育成といった業務拡大につながる取り組みを積極的に